

平成30年度 第2回
北栄町社会教育委員会・公民館運営審議会 会議録

開催期日	平成30年11月21日(木)			
開催場所	大栄農村環境改善センター会議室3			
開会時刻	午後7時06分			
出席委員 (9人)	岡本雅子	松浦靖明	砂原智香	磯江沙織
	宮川美貴子	大西博	三村章雄	清水武
	玉木純一			
事務局出席者 (7人)	別本教育長	杉本課長	前田室長	松尾室長
	友定館長	妻由館長	永田理事長	
書記	寺方			
1 開会	事務局杉本課長の司会進行で開会。また、三村会長の全国社会教育委員連合表彰についての報告。			
2 あいさつ	委員長あいさつ 日中のお疲れのところ、夜にお集まりいただきありがとうございます。人数の集まりが悪いですが、できるだけ良い審議をして終わりたいと思いますのでご協力お願いいたします。			
3 定足数の確認	遅れて出席の委員が多数なため後程の確認とする。			
4 議事録署名委員	委員長の指名により 松浦靖明 委員 ・ 大西博 委員となる。			
5 報告事項	(1) 研修報告 (P.1) ・ 第60回全国社会教育研究大会青森大会 ・ 第41回中国・四国地区社会教育研究大会高知大会 ・ 鳥取県社会教育振興大会兼社会教育委員研修会			
前田室長	まず10月5日に鳥取県社会教育振興大会兼社会教育委員研修会が倉吉であり、次に10月25、26日に第60回全国社会教育研究大会青森大会が青森にて開催されました。こちらのほうで先ほどの表彰の受賞もされましたが、三村会長にこの大会に出させていただいております。また、11月15、16日に開催された第41回中国・四国地区社会教育研究大会高知大会には、今年度からお世話になっています玉木さんに出させていただいております。 参加されて感じられたことなどをお話していただき、みなさんと共有できたらと思います。			
議長	10月の24日、25日、26日と三日間の日程でしたが、私は二日間参加させていただきました。全国大会で表彰を受けるという事で推薦をいただきましてこういう機会だったら行かせてもらおうかなということに参加させていただきました。 最初の記念公演は対談式になっておりまして、青森県の知事のお名前が奇しくも三村さん、青森県の未来を考える挑戦的な提案、提唱をされており、それがひとつの大きな提言という形でありました。それに対して、東北福祉大学の大学院の教授をしておられる大橋先生が対応して補足をしたり助言をしたりするという形でされました。 やはり青森県が抱えている問題は人口減少。青森市に行ったんですが、米子市よりも閑散としておりました。終わってから近くのねぶたの博物館に行きまして、色々話を聞きました。ねぶたの期間は東京に出ておられる方もねぶたの為に仕事を休んでも帰ってこられる、そういう元気な方がたくさんおられるというような話でした。が、しかし盛り上がりは今はねぶただけですという事を聞きました。やはり廃校もあつたり、それこそ村落が消滅したりとそういう傾向がだんだんと強まってきていて、対策を練っていかないといけないという現実味の非常にある話をされました。だからこそ、社会教育が必要だということになるんですが、どうしてもその視点が社会教育というよりは生涯教育の視点の話になっておられました。特に健康面、青森県は短命日本一の県だそうで大体40、50歳で亡くなる方が多い、これをなんとか健康意識を高めて人材が途切れないように人材育成、人材も財産の財の字をつかった人材育成をしていきたいということ今いるんなことを取り込んでおられるようです。なかでも特に健康意識の啓発や医療関係、ポリープをとる機械の生産が青森県であるようで、そういったことを起点として健康医療の産業も高めていってそれがまた県民の健康意識を高めることになる、そういう取り組みをしていきたいというような話をされました。 それから昔から出稼ぎが非常に多く、農業不振につながっている。人材がなくなっていく。補助金農業に頼っては農業は食ってはいけないと、食べる農業をなんとかしたいという話をされました。他県、周辺の県と出荷方式を助け合うような形で、農業輸出を300品を目標にしていま活動しておられるようです。県だけではなかなかできないので周辺の県も巻き込んで青森県の未来を考えた対策をとっておられるようです。その中で青森県が好き、青森県を愛する人材を育てたいと。たとえ青森県に住んでいなくても他県であっても、海外であっても支援してくれる気持ちを持ってくれるそういうつながりを大切にしていきたいというようなことを言っておられました。			



議長	<p>そして、それが実際に現実化していくためには、社会教育の働きで現実社会を回していくのが必要という話が大橋教授のほうからありました。なにが一番いいかという原動力、やはりボランティア活動を強くしていかなければならないという話でした。ボランティアは自立活動で、人と人のつながりが社会を作っていくことで連帯感が生まれ、地域づくりの現実化に根付くものなのでやはりボランティア活動は大事だという話でした。そのなかでも重要なのが学校との関わり、特に大学、大学生に働きかけて活性化させていくことが大事だという話でした。 記念講演ではそういうふうな話をされていました。</p> <p>シンポジウムのほうは現在の課題を中心に話されまして、人口減少の時代に向けた対策も必要だという話や、高齢化が課題だという話、そしてやはり東北のほうでは人口東京一極化という現実が大きいそうです。出稼ぎの関係もあって…そこは私たちとは違う温度差のある考えかかと思うところだったんですが、それによって残っている若者も孤立していく、つまり高齢者との差があつてなかなかなじめない、なじめる社会がつかれないということがあつると。若者の町のスタイルではなくて、お年寄りの町のスタイルになっている。何か言ってもじゃあ若者が集まれる場所があるかというところでは無くて、お年寄りが買い物をしたり温泉につかって休んだりとか、あるいは子ども連れでどこか遊びに行くのに面白いところがあるかというやはりない。傾向的にはお年寄りのための地域社会、現実的にそうなっているのが現状なようです。中年層シニア層の社会参加も難しく、参加しようと思っても参加するシステムがないというのが現実という事を言っておられました。</p> <p>だいたい社会教育は地域の政策の伺いとなるものだけでも、社会教育を働きかけてもなかなか反映されないという声もありました。そして意外だったんですけども、なかには社会教育委員に選挙活動を依頼する議員もいたということで、それだけ行政に関わる人たちの中で社会教育委員に対する意識が薄いと実感したという方の話もありました。社会教育委員は選挙活動に参加してはいけないのですが、そういう依頼が知らないであったということややはり行政のほうを意識をもっていなければならない、議員にも働きかけをしていかなければならないのではないかといった意見もありました。</p> <p>また違う目線のほうでは、高齢者のほうはつい若者が入って来いという目線で見がちだけでも、若者からすると入りづらい。若者が地域になじめない、そういう地域社会になっているというのが本当の現実ではないかという話も出ました。あるいは中高生や子どもの親世代が結局お客様になっている。やってもら側になっていて、みんながしてもらうのを待っている。そういう現実の中で社会教育委員のみなさんは苦勞して頑張っておられるという話でした。先ほどの議員に選挙活動を依頼されたというような話もありましたが、議員にも意識を高めてもらいたいということで、マスコミに記事にしてもらったら議員が動いたというような意見もあつた。そういうような対策も合わせて、いろんな意見を聞いて参りました。なんとかして社会の中で社会教育の意識を高めていきたい、少しずつでも前に歩みながら活動していきたいというのがみなさんの共通の意見としてありました。</p>
杉本課長	ありがとうございました。
前田室長	では、中国・四国の大会についてお願いします。
玉木委員	<p>はい。玉木と言います、よろしくお願いします。私は地域貢献をしたいなと思い、4月に公募で委員にさせていただきました。実際に自分が何をできるのかなどわからないことがあつたので、なるべく研修大会に出るようにして勉強しようかなと思い今回鳥取県の大会と高知で開かれた中四国の大会に出させていただきました。高知大会は11月15・16の2日間の実施で行われ主催者発表では450名の参加という事でありました。1日目は記念講演とパネルディスカッションがありました。記念講演は、みなさん土佐ジローというのは聞いたことがありますか？高知県の地鶏ですが、それを養鶏して加工して販売している小松さんという方が発表されました。土佐ジローを飼育しているのがもうその家一軒だけだそうで、今まですごく苦勞されたという話を聞きました。すごく情熱的で一所懸命に話されていて素晴らしいなと思いながら聞きましたが、その地区は住民が30名で、高知県は限界集落がとても多いという話でした。</p> <p>それからパネルディスカッションは4名の方が発表されたのですが、それぞれ立ち位置が違うのでなかなか話が結びつかないかなという印象を受けました。2日目は分科会がありまして、社会教育委員とはという会に参加させていただきました。最初に徳島県の方がされた地域と学校との連携による地域学習というテーマの事例発表をもとに、グループでのグループ討議がありました。前半後半であつたんですけども、私が入ったグループは基本が6名のところ4名しかいなくて、その中でそれぞれみんな立ち位置も違うし経験年数も違って、なかなか深まった話し合いにはならなかったのかなと思っております。ただ、やはり地域との連携、学校にしても地域連携、地域協働の重要性をととても強調されていました。それぞれ学校があつたり公民館があつたり色々な団体があるけれども独自にもやりつつ、同時につながつて協働で動いていけばもっといいものができるのではないかなと感じました。私もまだ自分がどういうふうに動いたらいいのかわからない部分もあります。研修で学んだことをこれから生かしていけたらいいなと思って、帰ってきました。まだ勉強中がよくわかりません。</p>
前田室長	ありがとうございました。鳥取県の社会教育振興大会のほうには清水さん、大西さんにも出ていただいております。もし何かありましたら一言ずつ感想を言っていただければと思います。
清水委員	<p>10月5日の鳥取県の社会教育振興大会が開かれまして、午前中の講演会では東京家政大学の山本和人さんが、見識の優れている深い内容の話をされました。あまりにも深すぎて広すぎて難しすぎて、かえってつかみどころがなく何が言いたかつたんだらう？という印象を受けました。こちらのほうが吸収できないくらいすごい内容の講演でした。それから午後から実践発表がありまして、島根県の吉賀町の社会教育委員会の議長が来られて報告されました。今社会教育委員と言いますと、ただ会議に出て話を聞いておくだけの委員から行動が求められている委員に変わっていつている。何をどういう風に行動するかということが問われておりまして、その為にやつたことを盛んにアピールされています。その内容というのが、なにもわからないからまず子どもでも万歩計を持たせよう。休みの日と学校へ行く日と、万歩計を持たせて毎日計測させようという試みでした。ずっと記録をとっていつてそれから親にもアンケートをとって、要するに子どもたちがどう動いているのかを知るために観察したという話でした。そしてそこから見えてきたのが、子どもたちには豊かな学び、体験、人との関わりが欠けているのでは？ということだったと言っておられました。じゃあ何をやつたらいいのかということで、学校家庭地域、こういったものが一体となつて子どもたちを育てていこうと。そのために子どもを花植え活動や、地域の食材を使つての商品開発、森林学習（森の中に入って伐採現場などを見せていく）などの活動に参加させていこうとされたという話でした。よく万歩計からそこに結び付いたなと思いましたが、そういう風な活動をされているという話でした。</p>

清水委員	<p>実践発表2つ目は鳥取県南部町の社会教育委員の取り組みということで始まりました。鳥取県のなかで一番社会教育に熱心なのが南部町でして、全員が動いておられて、活動しておられる町です。〇〇したい委員会から、〇〇する委員会へと活動していく自覚を持つことの重要性を強く打ち出しておられました。そのためには実態を知る、自覚を持つ、意見を言う、人間関係をよくすることに努めておられるようでした。ここは前からカラオケ大会を社会教育委員会でやったりだとか、あるいは飲み会をやったりだとかいうことを盛んにやっておられます。清水さん、あなた全員の社会教育委員の名前をフルネームで言えますか？と南部町の方に言われて、すみません私は顔は覚えてたんですけども名前をフルネームまではともじやないけど覚えていません…というようなことを返したんですけども、南部町の委員会の人はみなさん全員の名前をフルネームで言えるし、どこの誰というのもわかっているようで、すぐ何かあったら〇〇さん〇〇しようやと意見を言って動ける体制が整っているという事でした。我々のところではまだそういったことはないといえますか、私が清水ですといってもみなさんご存じないと思うんですよね。南部町ではそういったことがない、人間関係をよく知ってつながりがあるという事でした。そのために何をしていたのかという説明が省きますけれどもありました。</p> <p>それから最後にグループワークがあったんですが、このグループワークというのは行動する社会教育委員に向けてどういう風にやっていけばいいのかというディスカッションでした。まず1番目に現状課題は何か？をみんなでメモ用紙に書いて貼っていく作業、それから2番目は、ではやってみたいことはなんだろう？ということで洗い出しをしていきました。私がいたグループでは、現状の課題は人と人のつながりが無いという結論になりました。動ける人がいないということでした。昔は青年団がいて、あるいは4Hクラブと言って青年団と同義語なんですけど、今でも北海道のほうでは活動しているようですけどもそういった青年団のような人たちが動いて子どもたちも引っ張り込んで村を動かしていた。ところが今は青年団というものが無い。必要を感じて、うちの自治会でも青年部を作ったけれども年に一度の飲み会だけで終わってしまっている現状もあります。ですからまず誰が動くのかというところをやっつけていかなくてはならないんじゃないかという話でした。</p> <p>2番目のやってみたいことは？という問いかけに対して問題となって出ていたのは合併合併でコミュニティが大きくなりすぎて動きがつかない、盛り上がらないという事があると。私がいるところで言いましたら昔は大誠村と言っていたんですけど、栄地区と合併して大栄町になりました。大栄町で運動会をするときはものすごく盛り上がっていたんです。つぎに由良町と大栄町が合併して大栄町という大きな町になったんですけども、そうしたら町民運動会でも盛り上がりがなくなって、さらに大栄町が北条町と合併して北栄町になったんですけどもそうしたら今度は町民運動会にも出ていなくなってしまった。この辺でもコミュニティがどんどん大きくなるにしたがって、まとまりがなくなってしまっていることがある。三朝町には谷ごとに小学校があって小学校に地区の運動会を考える役場の職員が専属しているようです。この谷の地区の運動会はこの人がと中心になって考えて運営していく。ものすごい盛り上がりがあるということでした。やはりどれだけ合併してもコミュニティを拡大せずにやっつけていかなければならなかったんだと、どんどん拡大させていったのは間違いだったんだと気づかされました。盛り上げのためにこの辺のところをもう少しやっつけていかなければと思います。有意義な大会でした。</p>
前田室長	<p>ありがとうございました。大西さんにもお話ししたいのですが、時間のほうが押してまいりましたので次に行ってもよろしいでしょうか？</p>
議長	<p>それではなにか聞きたいことがありましたらまた個人的に質問してあげてください。</p>
前田室長	<p>それでは人数が揃いましたので、ここで定足数の確認をさせていただきます。半数以上の出席者がいることを確認し、公民館条例施行規則第4条により会議が成立することを報告。</p>
	<p>(2) 平成30年度事業の中間報告 (P. 2~49)</p>
前田室長	<p>社会教育事業評価について説明 (P. 2~11)</p>
議長	<p>質問等は後程にして説明を先にさせていただきます。</p>
前田室長	<p>文化振興と文化財保護の推進事業評価について説明 (P. 12~17) 社会体育の推進事業評価について説明 (P. 18~20)</p>
松尾室長	<p>人権教育事業評価について説明 (P. 21~26)</p>
友定館長	<p>中央公民館事業について説明 (P. 27~32)</p>
妻由館長	<p>図書館事業評価について説明 (P. 35~38)</p>
永田理事長	<p>中央公民館大栄分館事業評価について説明 (P. 39~43)</p>
杉本課長	<p>町のほうの事業につきましてはボリュームも非常にありますし町の中の内部評価という事で表立ったものを説明させていただきますので、P. 44からP. 47の児童館とおもしろまなびタイムの実施事業までは資料をご覧くださいという事で省かせていただきます。</p> <p>北栄スポーツクラブ事業について説明 (P. 48~49) 荒川事務局長が所用で欠席のため杉本課長が代理で説明。</p>
議長	<p>ただいまの事業の中間報告について質疑を受けたいと思います。まず社会教育事業について何か質問等ございますか？</p>
清水委員	<p>内部評価は誰がどのように決めているか？</p>
前田室長	<p>担当の者が自分たちの目標数値にどの程度達しているか一旦内部で評価します。そのあと課長が状況を見て適当かどうかというのを確認します。</p>
清水委員	<p>担当者の評価ということで、課で話し合っただけの評価という事ではない？</p>

杉本課長	基本的には課が出している評価だと思っていただければ。これが最終的に年度末に教育委員に評価をしてもらおうということと、表の右側に外部評価という欄がありますが、多くの事業の中で大体20程度を外部評価行政教育委員の方に中間、年度末と評価をいただきます。3つの評価で教育委員会の事業の評価があるということをご理解いただければと思います。
議長	文化振興と文化財保護の推進について質問等ございますか？
大西委員	P.12の町内埋蔵文化財整理事業とはどのようなものか？
前田室長	今まで大栄北条とそれぞれで発掘された遺物が保存されていたんですが、コンテナがどんどん積んである状態で、活用するには難しい状況でずっと保存がしてありました。その遺物を展示ができる状態にするためにどの箱の中にどこから発掘されたどういったものが入っているかを表にして、それをコンテナに貼って活用するのに使いやすい状態にするというのがこの事業です。そのために今古くなったコンテナから新しいものに入れ替えて、データを表にして貼ってという次の活用に向けた作業をしているところです。
大西委員	その仕分けは誰がするか？
前田室長	職員がしています。出てきた遺物に遺跡の名前が書いてあるものを見ながら分けて、というような作業をしています。
大西委員	その出てきたものの文化財としての価値までも判断できるのか？
前田室長	今年度県のミュージアムネットワークさんの博物館アドバイザー事業というものにも手を挙げておりまして、埋蔵文化財に詳しい先生がいるのでその先生にアドバイスをいただきながらということを進めています。今学芸員資格を持っている専門の職員が休んでいる状況ですので、県の埋蔵文化センターの職員さんのアドバイスを受けたりという事を考えて進めています。
大西委員	たとえば整理して同じような古い土器があり、処分する場合はどのように処理するのか？
前田室長	基本的に埋蔵文化財の発掘されたものというのは処分が難しいので、処分自体はしません。ただ活用すること自体も難しいものに関してはみらい伝承館に床下がありますのでそちらに置いて保存していくという形を考えております。一軍二軍三軍と私たちは呼んでいますが、すぐ活用できるものは取り出しやすいところに置いて、活用が難しいものは床下のほうにおいていこうという流れを考えています。
大西委員	処分はされないということ？
前田室長	処分はしません。
杉本課長	埋蔵文化財は法的に処分ができないので。(全く方法がないわけではないが、極めて困難)
議長	そのほか質問のある方は？
大西委員	民具のお別れ展示の8割は引き取り手があったという事だが、残りの2割は？
前田室長	そちらは粉々になったものや壊れたりしていたものでしたので、収蔵リストの台帳から除籍という形で整理しています。
大西委員	わかりました。
議長	続きまして社会体育の推進についてご意見ご質問のあるかたはございますか。
議長	すいかながいもマラソンというのは当日参加はできるか？
前田室長	できません。
議長	だから制限ができるんですね。わかりました。他に質問のある方は？
清水委員	松浦校長が3キロのコースを自転車でも何度も行き来して徹底しておられました。よく頑張っておられるなど頭の下がる思いでしたが本当によくやってくれました。ありがとうございました。 ただ、私も3キロのコースの沿道にいましたが、何時に出発して何組出発してくるのがわからなかった。家内もボランティアに出ていてその場にいたんですが、配られた書類にも何回出発があるのか書いていなくてわからない。聞いたら1回しかしませんよというようなことをちらっと聞いたものですからそれを聞いた人は納得して、1回通ったらもう帰ってしまったというようなことがありました。出発は3回あった？
前田室長	2回です。
清水委員	2回ですか。3回じゃなかったか？
前田室長	2回です。 今回ピストルの誤発砲があったので3回になったような形ですが、本来は2回です。
清水委員	その辺もうちょっと書類でもはっきりわかるような形で書いてもらえればと思いました。私がよく見つけなかっただけかもしれませんが…。
杉本課長	それはボランティアの説明要項に書いてあればという意味ですか？
議長	何時に出発かという事が書いてあればいいかなということだと思うんですが。
清水委員	私がよく探さなかっただけかもしれませんが…。
杉本課長	書類は何を見られて探された？
清水委員	ボランティアに配布された用紙とそれから町報だったか、見たけれどもわからなかったのです。

前田室長	どういったものがどういう風に出ているかすぐには確認ができませんので、今お答えするのが難しいですが書類のほうを確認しまして、広報するものには出発の時間がわかるようなものをという事で、無いようでしたら入れることを検討します。
議長	清水さんそれは今出発したから次来るぞ、というように対応できる気持ちを作るためにということですか？
清水委員	はい。待っていてもなかなか来ないものですから何時に来るんだろうと思い、あればよかったなど。
議長	対応するのに必要だったという事ですね。
前田室長	応援されるのに必要、という事だと思うので。沿道で応援する人も2回出発があることがわかれば応援も1回で帰っちゃうこともなかったというような内容だと思うので、その辺は確認させてください。
清水委員	そうです。以上です。
議長	そのほか、社会体育について質問などある方は？
前田室長	先ほどお話しにでましたが、中学校の有志の方にボランティアで立哨していただきました。お世話になりました。参加していただいてとてもありがたかったです。ありがとうございました。
議長	その他に意見は…なし 続いて人権教育の推進について…なし
議長	では公民館活動の推進についてなにか質問ありましたら。
清水委員	美術展を毎年楽しみに見させてもらっています。質問が適切かどうかわかりませんが、審査員の方は誰が決めるのか？ 賞が出ていますよね。美術展賞だとか奨励賞だとか。あれは審査員が決めるのだと思いますが、その審査員は誰が決めるのでしょうか？
友定館長	美術展の実行委員会というのがありまして、そのなかで町外のそれぞれの部門の有識者の中から決めています。
清水委員	わかりました。
議長	その他質問はありますか？…なし 図書館活動の推進について…なし 中央公民館大栄分館事業について…なし 放課後子ども教室推進事業について…なし よく頑張っておられると思います。頭が下がります。 児童館事業・青少年育成事業「おもしろまなびタイム」について…なし 北栄スポーツクラブについて…なし いままでのところでご意見や何か言い忘れたなどありましたら…なし それでは続きまして通学合宿のアンケート結果についてお願いします。
前田室長	(3) 通学合宿事業のアンケート結果について説明 (P. 50～53)
前田室長	来年度に向けて、今年度1ヶ所所で実施しましたが、当初予定していた2ヶ所所で実施するのはすこし厳しいなど感じています。教育委員さんからもスタッフが大変すぎるので、もう少し負担がないようなやり方を考えたらいいんじゃないかという意見もいただきました。来年度は大栄北条両方に募集をかけますが、応募者の多い学校の近くの1ヶ所を実施してみようかと考えています。2泊では物足りないという意見もありましたし、あっという間に終わってしまう。楽しかっただけではなく大変さ、苦勞も味わうのが通学合宿の醍醐味だと思うので、来年度は3泊にして実施しようかとスタッフの間では話しております。 学校側の意見としては対象学年は5,6年生が適当であるという意見、改善すべきところは取り組みとしてはいいが高学年の放課後の陸上の練習の時期と重なったので、その辺の時期を考えてほしいという意見がありました。熱い時期も大変ですし寒い時期も持ち物が多くて大変なので、実施時期をいつにするかというのを学校側と協議して考えていかないといけない。やはり学校側にご迷惑をかけては意味がないので。今年度実施してノウハウを得たので来年はそういう意味では少し余裕をもってできるのかなと思います。その辺も含めて早い段階で小学校側と相談させていただければと考えています。
議長	ただいまの説明に関してご意見ご質問のある方はお願いします。要望でも構いませんが。
松浦委員	参加したのは5,6年生？
前田室長	はい、そうです。
松浦委員	たしかに言われたように、2泊では初日はすごくたのしいで終わってしまう、2日目もたのしい会だったなで終わってしまうと思います。できれば6泊7日。日曜日から入って土曜日終わり。そのくらい長くできると、子どもたちは楽しいことも苦しいことも経験しながら乗り越えて協力することも覚えて、家に帰るときにはすごく違ったなどご家族にも実感してもらおうことが出来ると思う。そうすると、朝ごはんを子どもたちに作らせるというのはとても大変です。やはり5時起きはとてもしんどいです。朝ごはんは配膳だけ担当させて、作るのはボランティアの方に任せて、自分たちで作るのは夜ご飯と集中させた方がいいのではないかと思います。朝ごはんを作らせるのはいいが長い期間になると子どもたちの体力がもたない。こういうような事業をやり始めたころは、子どもたちが学校で寝ていることがあった。学校から苦情が来たことがあった。そういうことのないようによくお願いしたいと思います。
前田室長	今回朝ごはんも全部のメニューを作るわけではなくて、一品に限り作るというような配慮はしたのですが、それでもやはり時間がなかった。朝ごはん大変だなというのはみんな感じていたと思います。ありがとうございます。6泊7日…3泊も大変だなと思うところなのでハードルが高いですが、3泊が4泊に…というようにちょっとずつ延ばしていけたらと思います。

松浦委員	長くなると今度はスポ少との関係があるので、あまり期間が長くなると参加しない児童も出てくるかもしれません。
杉本課長	特徴的な意見としては保護者からさみしいのでこのくらいの期間で十分だという意見も一部ありました。
宮川委員	親のほうの子離れできないんです。子離れするという経験も大事ですね。私も船上山に子どもを行かせたことがあります。
議長	大きくなってから生きてきますよね、そういう経験は。
前田室長	頑張ります。みなさんご協力をお願いします。
宮川委員	長生きせんと。
前田室長	はい、みなさんいろんなところで活躍してもらいますので。今回教育長にも泊まる要員として泊まっていたいただきましたので、みなさん積極的にご協力をよろしくお願いします。
議長	という要望がでておりますので…。続きまして平成31年度事業に向けて説明をお願いします。
	(4) 平成31年度事業に向けて (P.54~56)
前田室長	P.54からP.56まで今年度の教育委員会の重点施策ということで載せていますが、来年度の予算を考える時期になったのでこういう事業に取り組んでどうかや、この事業は特にいいんじゃないかなど皆さんの中でご意見がありましたら、ぜひいただいて来年度の予算なり企画のほうに反映したいと思えます。
議長	みなさんのほうから提案、アイデアなどありましたら…なし また後日でもいいと思いますので何かご意見がありましたら事務局のほうにお寄せください。また参考にさせていただきますので。 P.57以降については？
前田室長	これは今年度の実施の事業について参考につけている資料ですのでご覧頂けたらと思います。
議長	各月の行事内容についてまとめてありますので目を通していただけたらと思います。これも含めましてまた何かご意見ありましたら事務局のほうをお願いします。
	(5) その他
議長	みなさんのほうから最初の委員の報告も含めて、こういう風なことがやりたいなとかこういうことを仕掛けていきたいなどありましたらぜひご意見をお願いします…なし もしあれば後日でも事務局のほうをお願いします。
6 その他	
松尾室長	12月4日~10日人権週間の啓発チラシ、11月22日わかりやすい人権の話について説明。ご都合がよろしければぜひご参加をお願いします。
議長	その他にありますか？
杉本課長	一点だけ。北条砂丘太鼓の大人の方の継承がうまくいってなくて、北条こども園では年配の方に指導をしてもらうなどしているんですが、今年北条砂丘太鼓を復活をさせようということで声掛けがあり、30代の二組の夫婦がやってみたいということで2か月間小さいお子さんがおられる中練習されて、11月4日の北条ふるさとまつりで披露されました。中央公民館なり生涯学習課なりで関わらせていただきながら20代30代の方に伝統的なものに関わってもらうのも非常に重要な取り組みという事で、こういうことがあったという事を最後になりましたがみなさんに知っておいただきたいと思えました。今後太鼓教室が12月16日に中央公民館であり仲間を増やしていこうとそういう取り組みもしておりますのでよろしくお願いします。
友定館長	またチラシを全戸配布させていただきますのでよろしくお願いします。
議長	小学生時代に教えてもらった人がちょうどまた大人になってね…
杉本課長	北条小時代に太鼓をしていた子が今大人になって保護者の世代になっているので。リズムは覚えていると。やりだしたら覚えてる覚えてると。そんな感じで、奥さんのほうなんかはずごく楽しんでされていた。
友定館長	今現在されているのは北条小学校やこども園の保護者の方ですので、そういった保護者の中で輪が広がればいいなと思っております。よろしくお願いします。
議長	いい報告をいただきました。ありがとうございます。
永田理事長	すみません太鼓ですが、大栄小学校の太鼓はどうなっているか？
杉本課長	黒ぼく太鼓ですよ、大栄小は指導する先生がいなくなって子どもも集まらないのでできないというようなことをおっしゃっていました。
永田理事長	でもうちの孫なんかは何とかしないといけないという事で、来年に向けてかつて太鼓を教わっていた子たち中学生高校生の中で声が上がっているみたいですけど。太鼓も何も全部揃っているしもったいない、確か数年前に皮も張り替えたのでは？
杉本課長	ちょっと記憶がないですが…

永田理事長	そういうふうなことがあったと思うんですが。もともとは大栄のほうにも砂丘太鼓があって青年団がやっていたんですよ。青年団がやらなくなってしまって、大栄小に太鼓だけが残った。もともとは公民館で太鼓を管理していたが、それが大栄小一本になってしまった。教室だとか練習する環境も揃っていたのにたかだか指導者がいないくらいで…。指導者がいれば子どもたちはやると思うんですよ。ずっと代々つながってきたものですからね。
別本教育長	今年学習発表会はしました。一旦途切れたかもしれませんがまたつながってます。
永田理事長	つながってるんですね、そういえばあったかも知れません。じゃあできたんですね。
杉本課長	学校を中心にされているのでうちはそこはちょっと把握していませんでした。すみません。
永田理事長	そういえば発表会ありましたね。いやいつも運動会の時に太鼓の発表があるのになかったしと思って…
議長	前は学校の先生じゃない方が教えていたので、そういう意味ではきっちりと指導があったと思います。
永田理事長	そうです。ちゃんと外部から指導の先生がきておられて…担当の先生もついておられたでしょうけど。
宮川委員	卒業した子が教えればいいのか？
永田理事長	そう、孫も自分たちが教えてでもやりたいと言っていたので…。そういうことができるのかなと。
議長	すこしずつそういう輪が広がっていけばいいかなと。教わった子が今度は教える側になって指導者になってもらうと、そういうふうな流れがあればいいかなと思います。
永田理事長	大体5年生6年生がやっていて、6年生が卒業してしまう前に5年生に継承してとそういう流れがずっとあったはずですよ。それがどこでなくなっちゃったのかなと。おかしいなと。
議長	そういうふうな流れも含めまして継続していく方向で、みなさんからいろんな知恵をいただきながら話を深めていけたらと思います。またご意見ください。 最初の説明で長々としてしまいましたが、ちょっとだけ時間も過ぎてしまいましたが時間には終わることが出来ました。たくさんの方の意見もいただきました。以上を持ちまして終了とさせていただきます。お気をつけてお帰り下さい。ありがとうございました。
杉本課長	そうしましたら閉会のほうはこちらのほうに戻していただきまして、最後に教育長から挨拶をさせていただきます。
別本教育長	昼間のお仕事でお疲れのところ、2時間という長時間にわたりご協議いただきありがとうございます。今年度もいろんな事業をやっています。その事業の中間報告という事と来年度事業についてもご意見をいただきたいということで、本来の社会教育委員の役割というのが企画立案、助言とかそういう事です。発表の中にもありましたが、行動する社会教育委員に少しでも近づけるようにご尽力いただきたいと思います。 2020年から小学校で学習指導要領が変わります。その中で社会に開かれた教育課程というのが打ち出されています。これはこれまで地域が学校に出かけて行って教育をしていくというようなことをやっていましたが、これからは学校が地域に対して何ができるのか？というところが求められる時代になります。地域、学校、家庭が同じ目標に向かって連携をしていく。来年度から教育総務課が主になってコミュニティスクールを学校の中に立ち上げていって、地域と一緒に連携を進めていくということを考えておりますのでどうか社会教育委員のみなさんにもご協力いただければと思います。よろしくお祈りします。本日は長時間ありがとうございました。
7 閉会	事務局杉本課長の司会進行で閉会。 それではみなさん大変お疲れ様でした。以上を持ちまして平成30年度第2回北栄町社会教育委員会兼北栄町公民館運営審議会を終了とします。ありがとうございました。
閉会時刻	午後9時06分
	上記のとおり相違ございません。
議事録署名委員	大西 博  印
議事録署名委員	松浦 靖明  印

